

ワクチンの効果弱める恐れ

変異株 国内新たに確認

ワクチンの効果を低下させる恐れがある変異をもつ新型コロナウイルスが、国内で相次いで見つかった。国立感染症研究所によると、関東地方で91例、空港検疫で2例を確認。東京医科歯科大も18日、東京都内の3例を発表した。感染研は「中長期的に感染制御上のリスクになりうる」とする。

見つかったのは、「E484K」という変異を持つウイルス。海外から入ってきたとみられるという。この変異には「免疫逃避」という性質があると考えられており、感染やワクチンで得た免疫の一部が、十分に効かない恐れが指摘されている。

アストラゼネカのワクチンでは効果が弱まる可能性が指摘されているが、どの程度かはつきりしていない。ただ、国内で17日に接種が始まったファイザー製のワクチンの効果については、同社などが「変異の影響は小さい」とする論文を米医学誌に発表している。

世界で注目される変異株は、英国、南アフリカ、ブラジルから報告される3種で、いずれも感染力が強まると懸念される「N501Y」という変異がある。国内でも確認次第、発表されてきた。

一方、今回の変異株にはE484K変異はあるが、N501Y変異はない。厚生労働省の専門家組織は18日、「実態把握の継続が必要」とし、座長の脇田隆宇・感染研所長は「ワクチン接種が進んだ場合にどのように見えるのか見ていく必要がある」と話した。

詳しい東海大学の中川草講師は、「日本ではまだ免疫をもつ人が少ないので、免疫から逃れるような変異よりも、感染しやすさが上がるような変異の方が、社会に与える影響は大きい」と指摘。「今後、同じような変異が生じる可能性も十分考えられるので、しっかりと感染者数を減らすことが重要だ」と話した。

(野口憲太、姫野直行)

感染力が高まったり、ワクチンの効果への影響が懸念されている変異株
海外型の確認数は16日午後4時時点

○=変異あり
×=変異無し

	英国型	南アフリカ型	ブラジル型	国内で新たに確認	
N501Y 感染力が高まる?	○	○	○	×	
E484K ワクチンの効果に影響?	△ 一部のみ	○	○	○	
確認数	国内	103	4	1	94
	空港検疫	32	7	4	2